

地域と協同の 研究センターNEWS

2024年3月25日発行
235号

第20回東海交流フォーラム「協同が生まれるまちづくり」

2月24日(土)、コープあいち生協生活文化会館及びオンラインで、「協同が生まれるまちづくり」をテーマに、第20回東海交流フォーラムが開催されました。その一部をご紹介します。

(文責：地域と協同の研究センター事務局)

I. 開会・全体会

開会の挨拶(要旨) 鈴木稔彦(地域と協同の研究センター代表理事)

東海交流フォーラムは今年、第20回という節目の回ということになります

本日は、東海のそれぞれの地域、それぞれの分野で積み重ねてきた数々の実践の報告と交流をしたいと思います。一つひとつの実践は、私たち誰もが考えていかなければならない、向き合わなければならない問題でもあります。人と人がつながりあって協同に満ちた、誰もが安心して暮らしつづけられる社会をつくっていくためにとっても大切な事例ばかりです。その小さな実践は、その活動の地域や対象の枠にとどまらず、その経験が広がって、別の場所や、新たな、いろいろな問題を解決していく、そのことに大きな意味があります。それは、私たちの未来へつながる本当の道筋を学ぶことにつながるはずです。

目標とすすめ方(要旨) 向井忍(地域と協同の研究センター専務理事)

「協同が生まれる街」というテーマで考えようと実行委員会で準備をしてきました。

午前中は私たちの研究センターの会員が各地域(三重、尾張、三河、岐阜)ですすめております活動の中から「協同の力とは？」を考えたいという事で、4つの分散会を開催します。

第一分散会は「多文化・多様な共生社会」をめざしてというテーマです。第二分散会は「くらしのたすけあいと協同」を広げる、第三分散会は「市民がつくる農業(産消提携)」を語り合う、第四分散会は「地域(共生)を作ってきた力」を探るという事ですすめます。

お昼は、「食と農」生産者と消費者をつなぐ交流会、その後、分散会で話し合ったことも含めて、小グループで、そして全体で話し合い交流するという事ですすめます。

II. 「協同の力とか？」テーマ別分散会

第一分散会「多文化・多様な共生社会」をめざして

第一分散会では三重の地域懇談会が中心になって「『多文化・多様な共生社会』をめざして」というテーマで2つの活動報告がされました。三重の地域懇談会では、昨年は多文化共生をテーマに、外国から日本へ移り住んだ人たちがどのように暮らしているのかを学び、外国人の生活支援をしている団体を

【2ページにつづく】

地域と協同の研究センター第24回通常総会のご案内(事前)

特定非営利活動法人地域と協同の研究センター
代表理事 鈴木稔彦

日頃より当法人の取り組みに、ご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

第24回通常総会を下記の通り開催します。議案書は春の大型連休前後で発送予定。

参加をご予定ください。

記

名 称 特定非営利活動法人地域と協同の研究センター第24回通常総会

開催期日 2024年5月18日(土) 10:30~12:15(受付開始10:00)

開催場所 コープあいち生協生活文化会館4階会議室

〒464-0824 名古屋市千種区稲舟通1-39(1階コープ本山・お店)以上

ご 連 絡 当日午後から総会記念シンポジウムを開催します。テーマは後日ご案内致します。

目次	第20回東海交流フォーラム「協同が生まれるまちづくり」	1	情報クリップ	10
	地域と協同の研究センター第24回通常総会のご案内	1	書籍紹介「私労働小説 ザ・シット・ジョブ」	12
	地域と協同の研究センター役員選出に伴う立候補受付の公示	9		

【1ページからつづく】

訪問してきました。その後、外国人と向き合うことだけでなく、地域には国籍問わず老若男女問わずいろいろな人がいる、地域に暮らす異なる人同士がどうお互い支え合える関係性をどう作っていくかという視点が大切だと考えるようになり、今年度は地域の中で、異なる人同士が支え合うことについて学んできました。分散会では、今年度訪問した2つの活動、三重県四日市の「みんなこ」の西村さん、三重県松阪市の「仲組ふれあいサロン」の中川さんから報告をいただきました。

「みんなこ」の報告

「みんなこ」が活動する三重県四日市市笹川地区は外国人集住地域として知られている街であり、笹川中学校に通う生徒の約40%が海外にルーツがあり、部活とは別に生徒が自由に活動する「多文化サークル」があります。「みんなこ」は、そのような地域で「高校生による多文化共生のまちづくり」を目指して設立された団体で「みんなニコニコ 笑顔で」という意味が込められています。80人が一度に「いただきます」ができる子ども食堂、防災食のパンを活用してパンで食後のお皿をきれいにする取り組み、フードパントリーと子どもたちによるゴミ拾いを組み合わせた活動、そして地域の小学校で地域の人たちと一緒に草刈りや、笹川中学校の校内の畑でさつまいもを育てて多世代による芋掘りをする活動を継続されています。その他、地域のお祭りを含む様々なイベントを通じて、高校生も子どもも大人も高齢者も一緒に過ごして楽しいと感じることができる場を作っています。地域の高齢者の皆さんにも声をかけ、コープみえの理事や組合員も関わっています。

世話役の西村さんは「一緒にいるって楽しいねということを楽しめる場を作っています。一緒に楽しい時間を共有する。これが多文化共生だと思っています。笹川では自然とそれができるんですね。日本人も外国ルーツの子も一緒に楽しい時間を過ごすことができる、そんな場を作ることを目指して活動しています。」とお話しされました。

「仲組ふれあいサロン」の報告

コープみえの組合員理事でもある中川さんからは、松阪の中山間地域で行われている「仲組ふれあいサロン」の報告がされました。

「仲組ふれあいサロン」のメンバーは、現在15名で平均年齢80歳。現在80代後半になる前の前の代表が20年前に呼びかけて始まりました。一人に負担がかからないように毎回メンバーが当番制でお茶菓子を準備しています。コロナ禍の間は飲みものは各自持参し、クイズ、脳トレ、フレイル予防、折り紙や手芸で静かな時間を過ごしました。現在は、以前のように体操をしたり歌を歌ったり、季節の小物作り、出前講座、近所に配布するゴキブリ団子作り、町内会の皆さんをお誘いするコンサートなど、賑やかなサロンが復活しました。またこの地域では町内会で40世帯一人ひとりに、お祭りや行事ごとにお祝い品が配られます。お祝い品には個人名が記されており、住民一人ひとりの名前が町内会で共有されています。20年以上続いている小学生の下校時に、通学路を祖父母が見守る「ホカホカ」という活動があり、毎年の地域の年間行事として小学5年生の子どもたちによる餅米の田植え、稲刈り、餅つき、餅まきが行われています。ボランティアによる1人暮らしの人へのお弁当作りは、地元の小学生が届けます。お弁当には、お弁当を届ける小学生の名前入りの手紙がついています。中川さんは「地域では当たり前で続いてきた個人情報そのものの公開です」と話されていました。

2つの活動報告の後には、15人の参加者一人ひとりから自己紹介と最近感じた幸せを、一言ずつ話して、西村さんと中川さんへ活動報告に対するコメントや質問がされ、活発な意見交換がされました。

(事務局 神田すみれ)

第二分散会「くらしすけあいと協同」を広げるには 分散会の趣旨：近藤充代さん（尾張地域懇談会世話人）

尾張地域懇談会では会員の活動実態を知り、どのような課題を持っているのか、研究センターとして何が期待されるのかを議論してきました。今回は都市部の繋がりがどうなっているのか、どんな困りごとがあり、どのような助け合いの活動があるのかをそれぞれの報告を聞き、抱えている問題点の解決に向けてみなさんと考え合う場にしたいと思います。

コープあいち「くらしすけあいの会」の報告（福田康子さん）

「くらしすけあいの会」は、組合員の困り事を組合員同士で解決する活動として始めた。しかし高齢化により協力会員やコーディネーターも減っている。一般の家事代行サービス業者との価格差問題もある。一方で利用会員の数は変わらず協力会員一人に対する負担が増えている。しかしこの活動は生協の理念に合っており、継続していくためにぜひ生協に応援していただきたい。

東海コープ事業連合電話注文センターの報告（谷口功さん）

電話注文センターで対応する高齢者の電話注文の現状を報告がありました。その中で、OCR注文ができな

い高齢者の電話注文での対応が困難な実態、クレーム対応についての生々しい報告がありました。高齢者は生協発足時に活躍された組合員が多く、利用したいという気持ちにどう応えていくのか、注文のしやすさなどを検討することともに、高齢者への配慮の研修を実施しオペレーターの意識付けの向上にも努めているとの報告がありました。

春日井「くらしすけあいの会」の報告（浜田弘子さん）

家事援助を中心に高齢者の方の見守りも兼ねて活動をし、包括支援センターからの依頼にはヘルパーさんのできないところの手伝いをしている。利用会員の登録人数は101名だが、協力会員は18名で増えていない。仕事は窓ガラス拭き、草取り、部屋の掃除等があるが、多くなったのは病院の付き添いとか免許返納による買い物依頼も増えている。最近では協力会員で車いすの勉強会や認知症の予防、詐欺被害防止の学習を進めている。これからも地域との繋がりを大切に、協力会員と頑張っけていきたい。

「おたがいさまひだ」の報告（松原滋さん）

2009年に「おたがいさまひだ」が発足して15年が経つ。活動時間は2018年をピークに、コロナ禍以後減少している。飛騨市で地域複合サロンにも関わり、最近ではJ AひだのAコープ閉店後の活用をどうするかという相談を受けている。社協との連携もあり行政との関りも増えてきているとの報告がありました。

「八木山ささえあいの家」の報告（児玉京子さん、堀部喜久枝さん）

「八木山ささえあいの家」は、会員制ではなく八木山地区に住んでいる人たちが困ったことを一緒に解決していく場所。サロンは常設で、ありとあらゆる困りごとに対応している。地域は高齢化が進み、家事支援、トイレの修理、草刈り、剪定、公園のトイレ清掃など多種多様な対応をしている。料金については、最初は無償だったが、現在は30分以内無料、それ以上は1時間800円ほど頂いている。対応者は男性が多く、年齢はほとんど80歳に近いと報告がありました。

意見交換

電話注文センターではOCRを通してしまうとキャンセルもできないのか。注文に関して「くらしすけあいの会」と「東海コープ事業連合」が連携したらどうか。「おたがいさま」の料金設定について。コープあいち三河地域での「たすけあいの会」の活動実情などの質疑が交わされました。（事務局 野田幸男）

第三分散会 「市民がつくる農業（産消提携）」語り合う

○三河地域懇談会からの報告（世話人：天野真知子さん・田所登代子さん）

2014年度からは、テーマを「地域で粋な老い支度を！」と決めて活動を続けてきました。

居場所の試みとして、「豊橋生協会館へ寄らまいかん」を開催してきました。コロナ禍があけて、去年は4年振り4回目の「豊橋生協会館へ寄らまいかん」をリアル開催しました。テーマは「平和・健康・食」、参加者はオンライン含めて100余名でした。そこで中嶋芳夫さんのお話を聞く機会があり、畑の見学会も行い、この分散会につながりました。

「支えあい・共生・参加・居場所」も大事、「粋な老い支度」は永遠のテーマです。

○中嶋芳夫さん（元みかわ市民生協役員）の話

農・食・健康が大切だと思い、自分で野菜をつくってそれを食べたら健康になると思って、農園を始めました。恵実生産者グループの代表、安藤さんの畑や資材を借りて、色々教えてもらっています。手探りで3年経ったら、食べられるものができました。

不摂生な生活から野菜中心の食生活に変わりました。BMIの数値はよくなりました。体脂肪、中性脂肪はぐっと減りました。善玉は増え、悪玉は減りました。

野菜をつくると、まずストレスがなくなります。基礎代謝量が増えます。育てて食べる楽しみがあります。安藤さんに苗を分けてもらい、安藤さんの真似をして、そこそこのものができるようになりました。食べると、野菜の栄養以外にも抗酸化物質などがどんどん入ってきます。一人でもできるのは、安藤さんという師匠がいるからです。資材も分けてもらい、健康な土づくりをすることができます。安藤農園の有機の基準に合わせています。

一緒にやる人を募りたくて、協同ファームの構想をまとめました。安全でおいしい野菜を食べて、元気になるファームに参加してほしいと思います。楽しく育てて収穫を喜び、失敗も次の糧にすることが大事です。自然相手なので失敗もあることを前提にやりましょう。体を動かして、気力と体力を養いましょう。夏、朝7時に畑へ行き、何時間耐えられるでしょうか。炎天下の農作業をするには体力をつけないとはいけません。気力も必要です。やめたいと思う時、八木憲一郎さん（元みかわ市民生協理事長）の「当たり前のことを非凡な努力でやるんだ」という言葉を思い出します。人一倍努力しないとダメということです。今日やることを明日に持ち越さないことです。収穫は、次の作物をつくるスタートです。土をどこに置いたらいいか、どうしたらいいか、自分で組み立てるのは楽しいことです。結果、安全で食べられる野菜ができ、それを食べると健康、元気になれます。

畑作業を一緒にやりたい人、収穫体験をしたい人、できた野菜を食べたい人、様々な関わり方を考えています。農業をやらない人にも関わってもらいたいと思います。ぜひ一緒に「農・食・健康」を実践する協同ファームをつくりましょう。

○近藤鉄次さん（スリーシー代表）の話

日進市で、2019年から農園にチャレンジ、加工用トマトを栽培し、愛知県産のトマトケチャップをコーミさんと一緒につくっています。コープあいちの職員のあたらしい働き方の受け皿になりたいと考え活動していて、何人かの参加があります。私自身は農業を始めて、風邪を引かなくなり、健康にいいことを実感しています。

参加者から質問や現地見学の希望も出され交流の時間は足りないほどでした。（事務局 伊藤小友美）

第四分散会「地域（共生）を作ってきた力」を探る

岐阜県各務原市の八木山地区での地域のささえあい活動は、男性の活躍が他では見られない特徴です。岐阜地域懇談会世話人会でお話を聞き、東海のみなさんと、この活動のすばらしさを分け合いたいと考え、フォーラムで報告していただく事になりました。

第4分散会は、清水さんのテキパキした司会によって、それぞれの方の活動が、報告されました。

報告一部抜粋（事務局）

- 35年経過して具合が悪くなった給湯器を直した（元エンジニア、壊れたものを直すのは快感）依頼を受けた清水さんは、機器の買い替えの相談にのって上げて・・・というつもりだったが、彼は直してしまった。
- ささえあい活動7年の実践。団地の中で、助けに入ったお宅は169軒に、何度も依頼があって10回行った家もある。テラスの板を外して、潜り込んでのカヤの刈り取りなど。
- 生活道具が無くて困っているアフガニスタンの人（名古屋の港区市営住宅）に、軽トラックで洗濯機・タンスなどを届けた。市営住宅は4階で、エレベーターもなく自分たちで運び上げた。そのタンスは、高齢の両親の家の方付けを依頼されたもの。団地でそのタンスが必要な人はいなかったが、研究センターのつながり（神田すみれさん）で、アフガニスタンの方に届けることができた。
- 暑い日、畑の草刈りを頼まれて3人、それぞれが草刈機を使って、日陰もない中で大変な作業だった。依頼した人は、活動の仲間で包丁砥ぎをやってくれている人、終わったら清水さんが草の方付けにきてくださった。
- 移送サービス、無料で行っている。前日までに申し込まれたら、希望の場所に送り届ける。買い物バス「ささえあいバス、八木山バス」の運行、他にはない特徴が、介助員がいるということ。買い物をした高齢者のお宅の玄関まで、時には家の中まで、送り届けている。バスに乗るのに必要なステップも、今日ここにおられる方の手作り。
発表の後、会場から次々と、感想・質問があがりました。一部を紹介します。
- 先輩方のしっかりした活動を聞いて未来が明るくなりました。
- なぜこの活動を始められたのか？坂の多いこの町に、歳をとったら住めなくなると出ていく人があった。この町を終の棲家になりたい。そのためにはささえあうしかない、と、そこからこの活動が始まった。
- 清水さんと皆さんの関係は？ 清水さんが親分ですか！ — 平等・対等です。清水さんはどんな時でも率先してその現場にいておられる。平等・対等だけど、清水さんに言われると「はい」となってしまう。

皆さんがこの活動を続けておられる理由は？

- *依頼した方からの感謝の声、生きがいや、やりがいにつながっている。何かやったとき、妻からは、「ありがとう」と（思っているだろうけど）、言われぬ。活動では、すごく喜んでもらえる。
- *朝起きた時に、今日何をしよう？と思わなくて、行くところがあるというのはすごくありがたい。
- *自分ができるだけ元気で長生きできるように、体を動かすことができる。趣味と実益を兼ねている。
- *くらしの一部になっている。
- *人のためではなく自分のためにやっている。男はシャイだから、なかなか活動に自分からは参加しません、引っ張り込むことが大事。
- *こういう風に一生を終えると思うと安心します。最大の理由は仲間がいることです。

清水さんから

自分の命を最大限活かして、生きて最後を迎えたいと思っているのと同時に、心打ち解けて話せる仲間がいること、こんな幸せなことはないと思います。

住民同士がささえあいすることで、うまれる気持ちの良いくらし、仕事を定年退職した後も、地域のため、人のために働き続けておられる姿に率直に感動しました。（事務局 井貝順子）

Ⅲ. 食と農（生産と消費）をつなぐ交流会 報告

3つのメーカーの営業担当の方にご参加いただき、試食・交流・即売のコーナーを持つことができました。短い時間でしたが、和気あいあいとした交流会となりました。「生協らしい昼食」と好評でした。

試食品紹介 内堀醸造：ワインビネガーを使ったポテトサラダ。
デイリーファーム：おいしい卵焼き。卵掛けご飯。
サラダコスモ：有機ブロッコリーの新芽を使った卵焼き

3社とも研究センターの旧「ものづくりの思いを語る会」でお世話になったみなさまです。午後のリレートークでは、内堀醸造会長の内堀信吾さん、社長の内堀泰作さん、デイリーファーム社長の市田眞澄さんにお話しいただきました。

三河地域懇談会から、この東海交流フォーラムで何度もご報告してきた三河の伝統食「煮味噌」を、前日から仕込んで提供しました。「のだみそ」の「とろみそ」を使ったものです。大根と甘夏の酢漬けもつくりました。会員から手作りぜんざいやコーヒーの差し入れもありました。

容器は、成長が早い竹とバガスの混合素材を使用したプレートとボウルです。生分解性100%なので環境に優しく、耐油性や耐水性にも優れていることも魅力です。バガスとはサトウキビから糖汁を絞った後に出る搾りかすです。今回使ったバガス容器の生分解性実験を行います。食べ終わって回収した容器は、細かく切って、新城市「やなまるっ人」の農園に投入しました。どのくらいの期間で分解できるのかを観察し確認します。
(事務局 伊藤小友美)

Ⅳ. 協同が生まれるまちづくり交流会

1. リレートーク（生産者、分散会より）

内堀信吾さん（内堀醸造株式会社会長）

内堀醸造の会長をしております内堀信吾と申します。今日は「日本の伝統文化と技術」ということで、お話しできればと思います。

蒸すということは、日本の伝統文化です。蒸すという技術で、日本は世界に誇る米麴（こうじ）ができました。米麴でつくりますと、非常に風味と味わいと甘みといういろいろなものが、バランスよく混じります。内堀醸造では「酢づくりは酒づくりから 日本の酢づくり」というコピーでがんばっています。試食のポテトサラダは、かなり酸味がきつかったと思います。じゃがいもが蒸してあるため、ワインビネガーをかけることができます。マヨネーズはフレッシュなビネガーがないと味が整わないのです。そのワインビネガーは、日本の米酢と根本的に違うところがあります。酢の酸味はほとんど酢酸ですが、ワインビネガーは酒石酸とリンゴ酸です。ワインビネガーは、土地の力でブドウがなり、そのブドウでつくります。今は、ワインビネガーをつくることのできる会社は、日本で唯一内堀醸造のみです。一度ポテトサラダを、ワインビネガーを使ってじゃがいもを蒸してから振りかけてつくってみてください。

内堀泰作さん（内堀醸造株式会社社長）

長男の内堀泰作と申します。父（内堀信吾さん）は昨日（2024年2月23日）でちょうど93歳になりました。この会場には、私が運転手を務めて車で来ましたが、途中、父は「私の人生は信じられないような人生だった」と言っていました。それは生協さんと出会ったおかげで八百津の小さな醸造屋が、酢に集中することができ、なくてはならない会社に成長することができたということです。

会長は、内堀醸造でしかできない酢づくりに集中するというので、発酵に投資をしてきました。時間当たりの生産性よりも、酢の品質をどうやって高めるかということに力を使ってきました。これを何十年も続け、その結果、今の我々の酢の品質があると思います。我々の酢を今よりももっときれいなものにしてもらい、お役に立てるよう、会長の意志を引継ぎやっていきたいと思っています。

市田眞澄さん（株式会社デイリーファーム代表取締役社長）

私は「卵で人が幸せになれるのだろうか」、私のつくるもので社会に貢献したいという思いがあります。私どもの地域で、耕作放棄地が広がり、若い人たちが少なくなり、農業の担い手が減ってという状況がありました。そういう中、耕作放棄地を使い、そこでつくる米を私どものニワトリに食べさせようということで「あいちの米たまご」を始めて14年になります。デイリーファームでは15tほどの鶏糞が出ますので、これを肥料に使ってもらいたいということで始めました。しかし、当初は鶏糞を使っていたような状況ではありませんでした。NON GMOの遺伝子組み換えしていない餌を与えていて、抗生物質・抗菌剤は一切使わず、納豆菌やら乳酸菌入りの飼料でニワトリを育てています。私はその鶏糞を宝にしようという意味合いで取り組んでいます。農家レストラン「レシピヲ」を開店して6年目になりますが、「野菜サラダ」が人気で、

みなさんにこの野菜は「私のところの鶏糞を肥料にして栽培しているから」と伝えています。これが「循環」と言われるようになり、資源の活用ということで評価されるようになりました。おかげを持ちまして昨年「内閣総理大臣賞」をいただきました。ようやく14年目にして国が認めてくれたと思います。輸入に依存する飽食の国日本で、私はこうした畜産をつづけなければと責任を感じました。これからも私の次の世代もつづけていき、地域や国のために、みなさんの役に立っていきたいと思います。

第一分散会 「多文化・多様な共生社会」をめざして 報告：田中睦さん

二つの地域の団体から報告をいただきました。一つは四日市市の笹川団地からの報告で、都会的なつながり、若い人たちのつながり、外国籍の方とのつながりをどうしていくのかというテーマでの報告です。もう一つは松坂市飯南町で、20年も続いている、地域の方が中心になってサロン活動をされている「仲組ふれあいサロン」の報告でした。若い人のつながり、高齢の方のつながりと対照的ですが、共通しているのは、どう地域づくりを大切にしていくかという視点です。若い人とのつながりをつくっていくための努力、高齢の男性をどうやって外・みんなの場に出てくるようにするのか、これから考えていかなければということ。

第二分散会 「くらしのたすけあいと協同」をひろげるには 報告：福田康子さん

コープあいち「くらしのたすけあいの会」は、創立して30年くらいになり、最初から参加されている方は高齢化し、新しい協力会員もなかなか入ってくれないという現状があります。岐阜の「おたがいさまひだ」の松原さんの報告でも、同様の報告がありました。八木山の報告では、掃除機の修理をたすけあいで行い、1時間700円、30分以内は無料でやってもらっちゃるということです。こうした活動はますます必要になってくると思いますが、それをどのように広げていくのか、協力してくれる人を増やすにはどうすればいいのか、みなさんで考えていただければ嬉しいです。

第三分散会 「市民がつくる農業（産消提携）」を語り合う 報告：駒井義明さん

報告は三つありました。まず三河地域懇談会からの報告がありました。三河地域懇談会は21年取り組んできていて、出かけて学ぶ、実践者の研究ということかと思えます。この取り組みをさらに広げていきたいと元気に取り組まれています。

みかわ市民生協の元役員「中嶋芳夫」さんには農業の取り組みについてお話をいただき、不断の努力の結果、野菜中心の生活になり、食べておいしく、健康になり、一石三鳥と思いました。30の近藤鉄次さんは、生協の支援もあって、清掃とかの会社を立ち上げ、農業にも10年取り組む中で、体温が上がり、かぜをひかなくなったということです。私の学びになり、楽しい時間となりました。

第四分散会 「地域（共生）をつくってきた力」を探る 報告：原勝行さん

各務原には3つの団地があり、大きな企業もたくさんあって、働いていた人たちは、会社から離れると一挙につながりがなくなってしまいます。仕事から離れ、これから何をするのかということが大きなことで、活動されている方にとって、そういうことがあるという事が自分の生きがいという話をされていました。また活動も、男性がいることでできることが増え、地域で喜ばれ、その喜びが次の活動につながっていく、そんな流れが良く見えたと思います。今は、ほとんど女性の清水さんがコーディネートし、男性のみなさんが活動されています。誰がリーダーシップをとってすすめるのか、誰が家に引っ込んでいて男性を引っ張り出してつなげていくのか、こういうことが参加されたみなさんの問題意識になればいいのではないかと思います。

2. 課題解決へ「一歩進めるセッション」

ファシリテーター：九鬼紋七さん（九鬼産業株式会社代表取締役会長／研究センター理事）

リフレクティングチーム・セッションといいますが、これは解決手法のことです。これから課すテーマは、自身の課題、私の課題は何々ですということで自分に響く何かを得られるのではないかと思います。今日は14のグループに分かれ、以下のようにすすめます。

1. 主役による課題の説明（2分）
2. リフレクターによる明確化の質問（6分）
3. OK メッセージ：主役への共感や賞賛の言葉（2分）
4. リフレクティング：アイデア出し（5分）
5. 主役による実行アイデアの発表（2分）
6. 1～5を通した各自の気づきをメモ（2分）
7. 「6」の気づきやこの時間について感想交流（10分）

限られた情報の中で、時間を効率よく使って主役の解決視野を広げる、一つ一つすすめることを目的とします。

参加者の感想から（事務局抜粋）

- ・まちづくりにおいても、協同組合は組合員が多くいることでやれることが広がり、またそれが大きな力になることを改めて感じました。
- ・順序だてて話をする事で課題が明確になり、結論やヒントが生まれやすいのだということを実感できたワークでした。具体的に物事を進める時にはぜひこの手法を使っていこうと思います。
- ・担い手はもちろんのこと、地域の課題を知り考える機会を、もっと生協職員が持ちたいと感じるようにしなければと思いました。

V. まとめ全体会

1. 地域の実践報告：JA ひだ朝日支店の取り組みについて 廣田令寿さん（JA ひだ朝日支店 支店長）

JAひだ朝日支店の廣田と申します。私が勤務する朝日という地域は、猿と猪、鹿がいて、そして少々の人間がいる、すごい田舎です。そこにJAひだのお店、Aコープ朝日がありましたが、閉鎖されて10年間ほったらかしの状態が続いていましたが、この4月からそのお店の跡地を利活用して、コミュニティの場をつくっていきます。

今日のタイトルで「～協同が生まれるまちづくり～」とあります。実際「協同が生まれる」というのはどんな時か、考えたことはあるでしょうか。協同は、一緒に働いたり、力を合わせたりというのはイメージしやすいと思います。それが実際、協同の力となってどうやって生まれるのか、実感するのはすごく難しいことと私は思っていました。そうした中で、私なりに考えたことをみなさんと共有させていただければと思います。まずAコープ朝日店を利活用するにあたって、どんなことを目的としたらいいのか話し合いました。農協は生協と同じ協同組合ですので、その協同組合の活動を実践していける場として活用していこう、その活動は協同組合の事業、活動につながることで、その結果組合員の方々をはじめとして地域の方々の暮らしを守ることになればと話し合いました。そして、そんなことがどうやったらできるのかということが一番の課題になりました。仲間がすごく大事ではないか、ではその仲間をつくっていくためにはどうしたらいいか、ステップ1. 認知、2. 利用、3. 参加、4. 参画の4つのステップを意識して活動をしていくことが大事ではないかと考えました。このステップは、いろいろな協同組合の活動の中で出てきますが、「家の光」という雑誌に掲載されたもので、(一社)家の光協会が考えたことということです。この4つのステップをしっかりと考え、自分たちが活動していくことが、一つのキーワードになると思います。

そして「旧Aコープ朝日利活用による協同組合の展開」として、朝日の地域でもいろいろなグループ、団体が、いろいろな活動をしています。それをしっかりと横につながるようなものをつくっていきたくて考えています。

話し合う中で、協同とか、共に働いたり、同じだったり、協調したりとやっていくことが大事で、ここの地域は、人口減少、少子高齢化が激しい地域で、みんながそれぞれ何役も引き受けて地域を守っていかねばいけません。そこを市とか、町づくり協議会とか、社協とか、観光協会とかという縦割りでなく、横につながる、横展開ができる活動をしっかりとやっていきたくて思います。その上で活動の拠点化として旧Aコープ朝日の利活用をと整理をしています。

2. 東海交流フォーラムと協同組合のアイデンティティ 前田健喜さん（日本協同組合連携機構）

「協同組合のアイデンティティ」とは、定義、価値、7つの原則で構成され、ロッチデール公正先駆者組合の原則をもとに協同組合の歴史の中で育まれてきたものです。現在の形になったのは1995年ですが、国際協同組合同盟（ICA）は2021年に、「アイデンティティ」を「改めて学び、活かし、検証し必要があれば見直そう」と世界的な協議を提起しました。「アイデンティティ」採択の1995年から、いろいろな環境変化がありました。9.11の同時多発テロ、リーマンショック、東日本大震災、そして今の戦争。デジタル化が大きく進みました。環境問題も深刻化しています。

今、ICAではアイデンティティに関する各国の意見を受け付けています。私たち日本協同組合連携機構（JCA）はさまざまな分野の協同組合が会員となっている団体ですが、この貴重な機会に積極的に参加していこうと、2022年度、まず「協同組合のアイデンティティ」について学ぼうと呼びかけました。そして、今年度2023年度は、「アイデンティティ」について話し合おうと呼びかけました。そして、話し合いで出された意見をもとに、日本としての改定の提言をとりまとめることにしました。これまでいろいろなところで議論していただき、現時点で、提言案を以下の7点にまとめているところです。

1. 地域社会への関与を協同組合の目的として規定し、その位置づけを高める。
2. 組合員参加に関する記述を充実させる。組合員同士のつながりの重要性を記述する。
3. 職員を協同組合の担い手として位置づける。
4. 協同組合を越えた協同について記載する。協同組合と気持ちを同じくする人たちと連携していく。
5. 平和・非暴力を位置付ける。

6. 環境問題を位置付ける。

7. 認知向上に関する記述を充実させる。

少し補足します。まず1点目の地域社会への関与について。地域があつてその基盤の上に協同組合があります。地域が安定していればいいのですが、現実はそのようになっておらず、どの協同組合にとっても地域を持続可能なものにすることが必須の課題となっています。今も「地域社会への関与」の原則はありますが、その位置づけを高め、協同組合の目的として位置づける必要があるのではないかとということです。

2点目の「組合員参加」について。協同組合は、人びとが集まり自分たちの課題を解決するために生まれます。ただ、協同組合が大きくなると、職員を雇い、組織として自立していくこととなります。そうすると、組合員と協同組合の関係が中心になり、組合員同士のつながりが薄れてくる傾向があると思います。しかし、協同の力の源は組合員同士のつながり・協同にあり、そうしたつながりを取り戻すことが重要だと思います。

これらの2点は特に、東海での皆さんの取り組みや問題意識とも強くつながるものだと思います。提言は、3月末のJCAの臨時総会で承認を得て、ICAに提出していく予定です。世界の議論のなかでどう受け止められるかはわかりませんが、各地の話し合いの中で出されたコメントや意見をもとにとりまとめたものであり、日本の協同組合の問題意識として出していきたいと思っています。

3. 第20回東海交流フォーラムのまとめ

向井清史さん（名古屋市立大学名誉教授／研究センター理事）

協同組合はメンバーシップ組織、会員制の組織です。その会員制の組織が持っている共益、協同の利益、これと公益、公の利益との関係を我々は今どういうふうを考えなければいけないかということが問題だと思います。よくある例で、例えば「マフィア」とか「やくざ」の共益と、協同組合の共益は同じではありません。メンバーシップ利益を追及する点で同じですが、やくざはやくざのことしか考えません。協同組合はメンバーシップの組織ですが、自分たちだけのことを考えるわけではなく、公の利益と背反しないように、リンクするよう考えていかなければならない。公益と離れたメンバーシップ利益の例としては、よく問題になるナショナリズムがあります。例えばロシアのウクライナ侵攻はナショナリズムです。国民の中にはいろいろなことを考えている人がいると思いますが、プーチンは勝手に彼がイメージするロシア人の利益しか考えていないわけです。メンバーシップ組織の共益というのは、自分たちの利益が公益とどういう関係になっているかということを常に忘れないようにしないと、思いもしない方向に向いていく可能性があるということです。その意味で我々は現在社会における優先されるべき公益とは何か、これをよく考えないといけない時代になっているということだと思います。

貧困の問題とか分断の問題等、公＝政府の力が弱体化してしまった現代というものを、きちんと理解する必要があります。能登半島に地震がありました。能登半島の現状を見ると、日本の30年ぐらい先の姿がわかります。水道管がきちんと更新されておらず古い水道管のため、地震があるとすぐに分断されてしまい、なかなか復旧できません。建物の耐震化率は能登半島では非常に低かったため、あのように大きな被害になりました。高齢化社会の現実を物語っています。高齢化でもう先が長くないと思ったら、家に手をかけ耐震化をしようとは思わない。だからどんどんインフラや家屋など生活用資産が劣化していくわけです。人口数が少なくなるという問題よりも、生活基盤が劣化していくということが、高齢化社会の本物の恐ろしさです。手を入れ続けなければ、どんどん社会的インフラも役を果たさなくなります。そして、需要も減っていきます。例えば、テレビは我慢して新しいものを買わなくなるとかです。高齢化の一番恐ろしいところは、行動、思考全てが内向きになるということです。そしてどんどんいろいろなものが小さくなり、経済も小さくなっていきます。我々のくらしも、悪くはならないまでも、良くはならない。そういうことが今回の能登半島地震を通して我々が考えなければならないことだと思います。

こういう高齢化の仕組みと経済の仕組みについて十分に考えないと、今、我々にとって重要な公益というものが見えてこないわけです。政府もそこそこ財政的にも豊かで、日本経済も右肩上がりの時代には、あまり公益のことを考えなくても自分たちのことをちゃんとやっていたらよかったわけです。しかし今の時代では、公益のことを考えないと、共益自体の存立基盤が弱体化していきます。

つながりを大切にしていけないと、我々の生活を維持していくことがなかなか困難な時代に入っているといえるのではないかと思います。つながりを大切に、公益、前田さんの話で4. 「協同組合以外の同じような価値観を持っている組織とも広く連携していきましょう」という原則を提起するとありましたが、今日の協同組合はそういうことを求められている存在であるし、そのことを通じて初めて我々の共益自体も守っていくことができる、私たちはそういう時代に生きています。改めて公益を守ることは共益を守ること、という視点を大切にしたいという感想を持ちました。

特定非営利活動法人地域と協同の研究センター役員選出に伴う立候補受付の公示

定款第 18 条に基づき、第 13 期役員の任期（2024 年 5 月 18 日まで）が満了しますので、定款第 16 条に基づき第 24 回通常総会において、第 14 期理事・監事を選出します。役員選出規約第 4 条 2 項に基づき、役員立候補の受付を以下の通り公示します。

記

1. 理事・監事の定数

理事：35 名

選出枠 岐阜地域枠：7 名 愛知地域枠：10 名 三重地域枠：7 名 全体枠：11 名

監事：2 名

2. 立候補受付期間

2024 年 3 月 25 日（月）～2024 年 4 月 5 日（金）午後 5 時まで

3. 立候補の手続き

立候補は、地域と協同の研究センター事務局に電話又はメールで連絡し、立候補届出用紙を受け取り記入し、受付期限：4 月 5 日（金）午後 5 時必着で、第 24 回通常総会役員選出管理委員（地域と協同の研究センター事務局室）に提出ください。

受付時間は土日を除く午前 10 時～午後 5 時です。

事務局連絡先 特定非営利活動法人地域と協同の研究センター

〒464-0824 名古屋市千種区稲舟通 1-39

TEL 052-781-8280 FAX 052-781-8315 E-mail AEL03416@nifty.com

4. 選出の方法

定款第 16 条及び役員選出規約第 6 条に基づき第 24 回通常総会に於いて選出します。

役員選出について（特定非営利活動法人地域と協同の研究センター役員選出規約）

第 2 条 理事は、個人正会員及び団体正会員を代表する者のなかから会員の所属などの構成を反映して選出します。選出枠とその定数は、毎年度末の会員数にもとづき、理事会が決定します。

第 3 条 監事は、個人正会員及び団体正会員を代表する者のなかから選出します。

理事選出枠について

地域枠＝岐阜・愛知・三重の県域で設けます。各県域内に居住、又は職場がある等県域で活動する個人正会員・団体正会員の選出枠です。正会員はお住まいの地域、職場があるまたは活動している地域で立候補することができます。

全体枠＝県域を越えた活動をする団体会員と正会員、研究センター運営に関わる理事、及び東海 3 県以外に在住する正会員の選出枠です。

以上

2024 年 3 月 25 日

特定非営利活動法人地域と協同の研究センター
第 24 回通常総会役員選出管理委員

情報クリップ

co-opnavi 2024.3 No.862
女性職員の活躍から考える誰もが働き続ける職場づくり
 日本生活協同組合連合会 2024年3月 A4判 32頁 363円(消費税込)

令和6年(2024年)能登半島沖地震に被災者・被災地支援
 特集

- 女性職員の活躍から考える誰もが働き続ける職場づくり
- <今日も笑顔のコープさん> コープかごしま
- <想いをかたちに コープ商品>
CO・OPまんまるねぎとろ丼
- <生協大好きママコブ山さんの 教えて!CO・OP商品>
CO・OPエビグラタン
- <CO・OPの役立ち♪家庭用品>
CO・OPフリーリア

- <組合員に支持される店づくり・売場づくり>
コープみやざき
- <日本全国 宅配現場におじゃまします!>
コープこうべ
- <明日の暮らし ささえあうCO・OP共済>
福井県民生協
- <立ち止まって、ゆっくり生きてみよう>
メンタルケアカウンセラー 丸岡いずみさん
- <この人に聴きたい>
ボーカー&手話パフォーマー HANDS I G N
- <ほっとnavi> わかやま市民生協 / 日本生協連

生活協同組合研究 2024.3 VOL.578
健康寿命の延伸のために
 公益財団法人 生協総合研究所 2024年3月 B5判 88頁 定価550円(消費税込)

巻頭言

先祖代々の墓が消える!?! 岩田三代

特集 健康寿命の延伸のために

- 地域で取り組むフレイル予防
ー健康長寿と幸福長寿の実現に向けてー 飯島勝矢
- ビッグデータを活用した新しい健康増進活動
中路重之・村下公一・三上達也
- 筋活で延ばす健康寿命 町田修一
- 食物繊維の健康寿命への効用 青江誠一郎
- 食生活からの認知症予防 大塚 礼
- 食生活によるフレイル対策 本川佳子
- 「CO・OP共済 健康づくり支援企画」から考える生協の
「健康づくり」の取り組みについて 田中美樹

■研究と調査

芸術従事者の協同組合モデル
ー現代美術における芸術従事者の活動環境に資する連帯ー
木原 進

■国際協同組合運動史(第24回)

戦時下における国際協同組合同盟(ICA)① 鈴木 岳

■本誌特集を読んで(2024・1) 大木 茂・北川太一

●公開研究会

- 「生協総研賞・第20回助成事業論文報告会」3/15
- 「生協社会論」受講生募集
- 〈刊行案内〉 『生協総研レポート』No. 100
- 『生協総研レポート』100号の軌跡

文化連情報 2024.3 No.552
能登半島地震被災地支援 ひろがる協同の力 厚生連病院のDMAT活動
 日本文化厚生農業協同組合連合会 2024年2月 B5判 88頁 文化連情報編集部 03-3370-2529*注

農協組合長インタビュー (95) フルーツ山梨農協
 先人たちの技術を進化させトップブランドを維持
 西島 隆

【特集】能登半島地震被災地支援
 ひろがる協同の力 厚生連病院のDMAT活動
 佐久総合病院グループ・広島総合病院
 佐藤和樹・丹下博紀

会員ニュース 【厚生連DMAT特集】
 かつの厚生病院・相模原協同病院・岐阜県厚生連
 三重県厚生連・尾道総合病院

自由・公正な価格交渉環境を
 ～「医薬品流通ガイドライン」改訂案に意見提出～
 佐治実
 「医療医用医薬品の流通改善に向けての流通改善に向け
 ての流通関係者が遵守すべきガイドライン(改訂案)」
 に対する意見

自由・適正・公正な共同購入への参画を掲げて

第 47 回厚生連医療材料全国共同購入委員会・
第 10 回厚生連医薬品全国共同購入委員会通常総会を開催

院長インタビュー (348) 豊田厚生病院

コロナ後の通常診療へ軸足移動
地域連携で高度医療と救急の砦へ 服部直樹
〈レポート〉若手技師の資格取得で成果 JA 愛知厚生連
協同精神のリレー (12)

大谷翔平の二刀流野球 伊藤澄一

二木教授の医療時評 (218)

「生活習慣病」と「健康の社会的決定要因」の
用語見直しの必要性・再論 二木 立

愛知県厚生連 豊田厚生病院

専門医機構共通講習を開催しました 山本あかり

アメリカの医療政策動向 (38)

2024 年の医療費政策の展望—超党派的な合意への注目
高山一夫

野の風 霞ヶ浦編

農業者・生活者として語る (3) 豚肉偽装事件発覚
山口和弘

変わる日本のまちづくり (44)

健康づくりを担う社会福祉法人の役割
一鷹栖町さつき会① 杉岡直人・畠山明子

多様な福祉レジームと海外人材 (70)

日本における移住労働の女性化：
フィリピンパプの栄古盛衰 2 安里和晃

全校統一献立

新潟県の郷土料理 三条カレーラーメン 霜鳥知子

臨床倫理メディエーション (71)

協働対話が紡ぐ“4つの段階”と“4つの循環”①
中西淑美

デンマーク&世界の地域居住 (176)

「つくろうシェアハウス ひらこうまちカフェ」を
実践する「NPO法人ささえる」(愛媛県松山市)①
松岡洋子

熱帯の自然誌 (96) オランウータン 安間繁樹

◆第 32 回 農協生活福祉研究会開催のお知らせ

□書籍紹介 からだ整う温活薬膳ごはん

社会運動 2024.1 No. 453

まぼろしの商品社会 変革のキーワードは「使用価値」

一般社団法人 市民セクター政策機構 2024 年 1 月 A5 判 144 頁 本体価格 1,100 円 (消費税込)

FOR READERS 未来社会の基礎になる「使用価値」

消費社会批判

消費社会批判としての消費財
市民セクター政策機構 理事長 柳下信宏
現代消費社会の問題点から脱却する途を考える
名古屋商科大学経営学部教授 矢部謙太郎
「半市場経済」の構想 哲学者 内山 節

つながるローカルSGDs

生活クラブの「つながるローカルSGDs」
生活クラブ事業連合生活協同組合連合会会長
村上彰一

CASE① 農福連携 あきる野

CASE② ソーラーシェアリング 相模原

社会的連帯経済

脱・新自由主義の一手となる社会的連帯経済
明治大学 名誉教授 柳澤敏勝
スペイン社会的連帯経済の主役、労働者協同組合
ジャーナリスト 工藤律子

資本主義の個別化社会を解体する

関西学院大学人間福祉学部教授 桜井智恵子

巨大広告会社が招く民主主義の危機 作家 本間 龍
書評 『「消費」をやめる』 加瀬和美
『コモンの「自治」論』 山崎佐由紀

連載

フォルケリな日常 北欧の暮らしのなかの政治 最終回
デンマーク領グリーンランド
続く先住民族への差別と偏見
ジャーナリスト 写真家 鏡 麻樹

ネット最前線・観測記 ③

サンリオ=《かわいい♡》を奪わせないために
外国人権法連絡会 事務局次長
市民センター政策機構客員研究員 瀧 大知

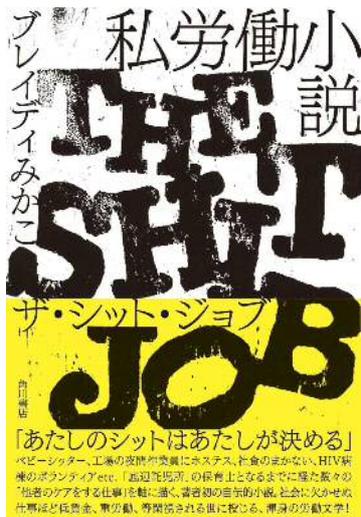
韓国の社会的経済と政治 第 7 回

次年度予算を大幅に削減
現状復旧を要請する社会的経済の人びと
城南市協同組合協議会政策委員長
市民セクター政策機構客員研究員 崔 珉竟

地域・協同の運動、協同組合に関する文献資料、協同組合・生協関係の研究所などの調査研究成果や研究センター会員の研究成果などから、比較的入手しやすいと思われるもの、寄贈いただいたもの(♣)などを中心に順不同で紹介しています(主な内容は目次等から事務局が要約しています)。詳細は研究センター事務局までお問い合わせください。

書籍紹介

井貝順子会員からの書籍紹介



私労働小説 ザ・シット・ジョブ

著者：**プレイディ みかこ** 定価：1,650円（本体1,500円＋税）

出版社：KADOKAWA 発売日：2023年10月26日 ページ数：256

「自分を愛するってことは、絶えざる闘いなんだよ」。魂の階級闘争の軌跡!

「あたしのシットはあたしが決める」ベビーシッター、工場の夜間作業員にホステス、社食のまかない、HIV 病棟のボランティア等。「底辺託児所」の保育士となるまでに経た数々の「他者のケアをする仕事」を軸に描く、著者初の自伝的小説にして労働文学の新境地。

井貝順子会員からの紹介

心に残った言葉

- 声を出さずに泣く階級の子もがいる。
- 水商売では年齢と美醜で判断されて、失礼な言葉や態度を許容することでお金を貰う。失礼を売り、失礼を買う。失礼は金になるのだ。
- 革命とは転覆ではなく、これまでとは逆方向に回転させることなのかもしれない。

上流階層の人たち、あるいは客から、上司から、もしくは自分自身たちからさえも「下」に見られる仕事。そうした仕事（身分）に就いていることで味わう理不尽や悲しさ、悔しさが本作では語られている。少なからぬ人たちが「できるならば就きたくない」と考え、人間としての価値まで低く見られ、しかも給料だって、労働環境だって良いとは言えない仕事。そんな仕事の息使いが感じ取れる。「世の中には金銭的にも恵まれず、社会的にも軽視されている仕事があるのだが、これらの仕事はいつまで経っても恵まれないままで良いのかという疑問がある」と後書きにあるように、半分ノンフィクションで自ら経験した仕事や知り合いのエッセンシャルワーカーの仕事をテーマにした「自伝風小説」。

八木山ささえあいの家で語られる、誰かの役に立つ喜び、そこにつながるフレーズ……

ポッシュ（上流階級）のパブロは語る。「ケアというのには双方の人間が必要だからだ。ケアをする方とされる方、双方の人間がいてポジティブな精神的電波が生まれる。この電波こそが、人間が今日まで生き延びてきた原動力になったという人もいる」しかし、ケアの現場で働く人々は、高い精神性を要求され搾取され、十分な「パン」は与えられていない。「報われない仕事」だ。

研究センター3月の活動

3月1日（金）生協の未来のあり方研究会	3月16日（土）研究センター理事会
3月2日（土）千種区受託企画「外国人のみなさんとカレーとスイーツをつくる」・共同購入事業マイスターコース修了式	3月18日（月）尾長地域懇談会
3月3日（日）これからのあいち子ども食堂を考えるフォーラム	3月19日（火）あいち在宅福祉サービス事業者懇談会世話人会
3月4日（月）地域における子どもの学び支援共同研究会	3月23日（土）公開セミナー「容器包装と資源循環」
3月7日（木）協同の未来塾修了式	3月25日（月）協同組合ネットあいち幹事会
3月9日（土）第二回「地域まちづくり」学習会	3月26日（火）生協総研「大学講座」交流会 研究センター常任理事会
3月11日（月）三河地域懇談会世話人会	3月27日（水）あいち・なごやウクライナ避難者支援ネットワーク情報共有会議
	3月30日（土）難民食料支援学び語り合う会 友愛協同セミナー

研究センター4月の活動予定

4月1日（月）地域福祉を支える市民協同フォーラム 三河地域懇談会世話人会	4月15日（月）名城大学法学部「ボランティア入門」②
4月4日（木）組合員理事セミナー世話人会	4月22日（月）名城大学法学部「ボランティア入門」③
4月8日（月）名城大学法学部「ボランティア入門」①	4月25日（木）あいち・なごやウクライナ避難者支援情報共有会議
4月10日（水）協同組合等研究組織交流会	4月27日（土）あいち平和行進出発式
4月13日（土）東海交流フォーラム実行委員会/研究センター理事会	4月28日（日）「多文化社会と協同組合」懇談会
	4月29日（月）名城大学法学部「ボランティア入門」④

※企画は新型コロナウイルス感染拡大防止等のため中止・延期・オンライン参加のみとなることがあります。

参加の前にホームページ等でご確認ください。